

“次回のフラぶらに向けて”

学校法人 国際学園

九州医療スポーツ専門学校 理学療法学科

九州医療スポーツクリニック 副院長

Kyushu Medical Sports Vocational School & Kyushu Medical Sports Clinic

理学療法士 田中 創

Physical Therapist, SOH Tanaka

2013.7.14-15 フラットぶらっと2013 in 浅草

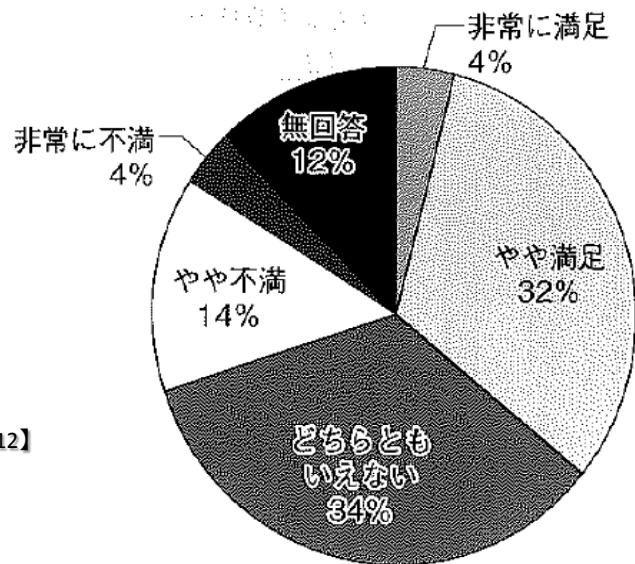
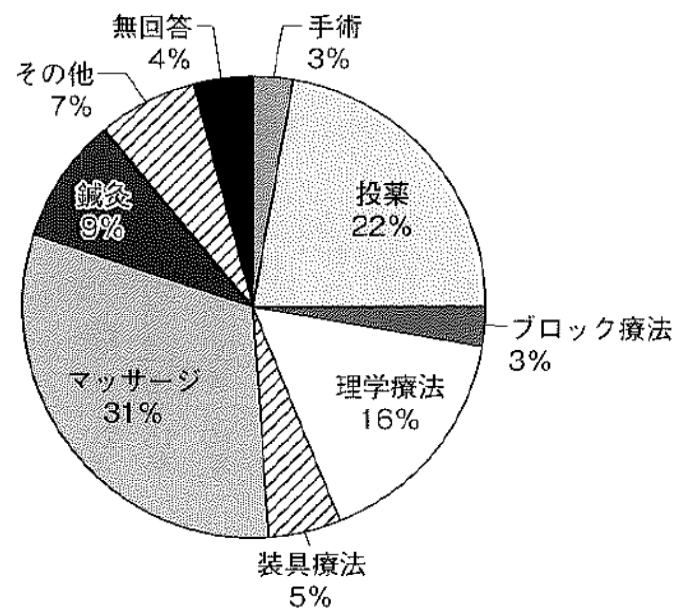
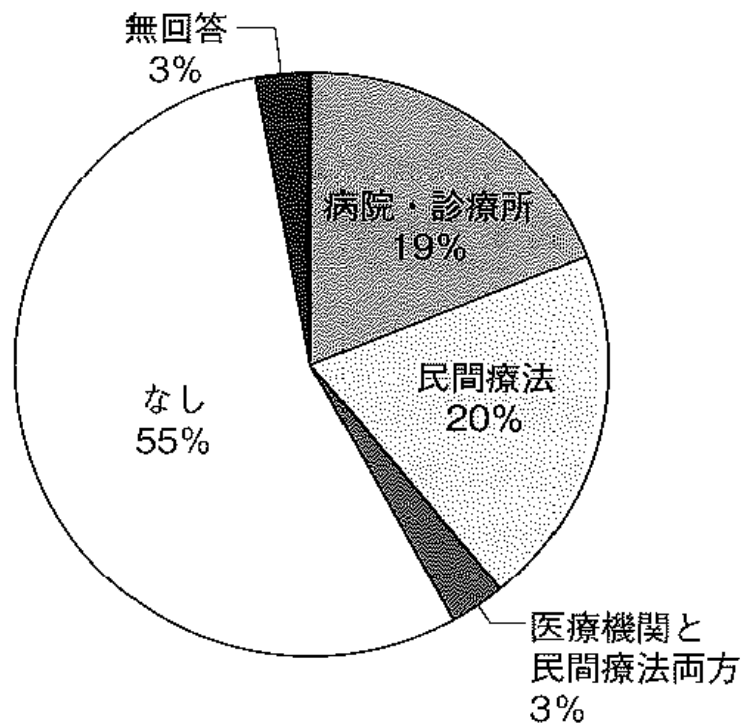
「不易」 = 永遠に変わらない, 伝統や芸術の精神 → 【過去～現在】

「流行」 = 新しみを求めて時代とともに変化するもの → 【現在～未来】

相反するようにみえる流行と不易も, ともに風雅に根ざす根源は実は同じであるとする考えであり, 要約すると「変えてはならないことと, 変えてもいいことがある」ということです.

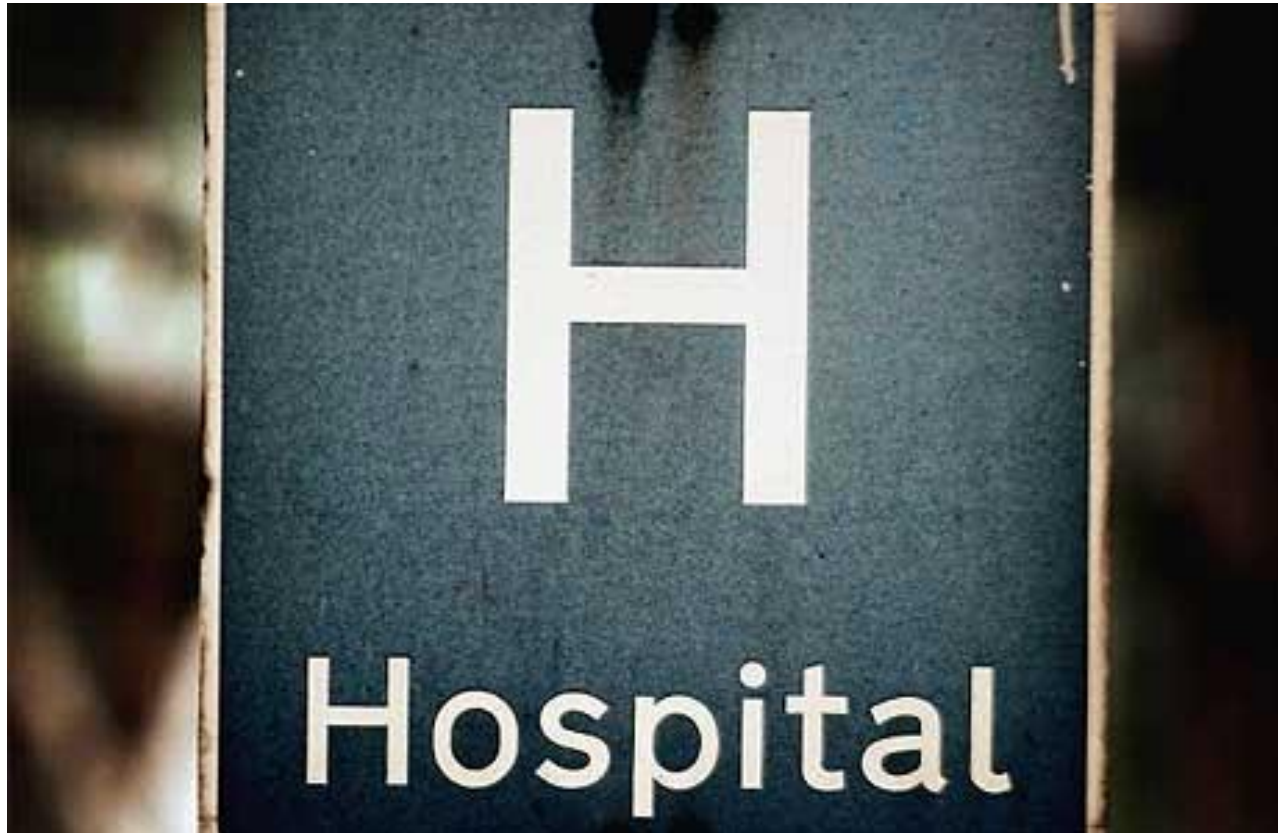
今こそ我々が「**何ができるか**」を提示していく必要があるのではないのでしょうか.
医療が縮小されかけている今こそ職域の確保という椅子取り合戦のようなちっぽけな了見ではなく, 我々一人ひとりが何ができるかをはっきりと提示し, 他職種に生かしてもらい, 認めてもらうという考え方が, 結果として我々の価値を高めていくと確信しております.

その為にも各々の「負けねえ」何かを提示していただき,
「俺ならこうする」という日々の「俺の考え・臨床」を参加者すべて同じ立場(フラット)で激論し, 結果を追い求めていく必要があると想います.



【中村雅也・他：運動器慢性疼痛の疫学、運動器の慢性疼痛-治療新戦略、整形外科63(8)、南江堂、2012】

【選択肢】



統合と解釈(臨床推論)はセラピストの強み:多面性がある
しかしながら、それが“**主観**”であることも、また問題となる



- * **質の最低保証**とセラピストの**教育**
- * 理学療法**の不透明性の改善**
- * **医療経済**学的な効果

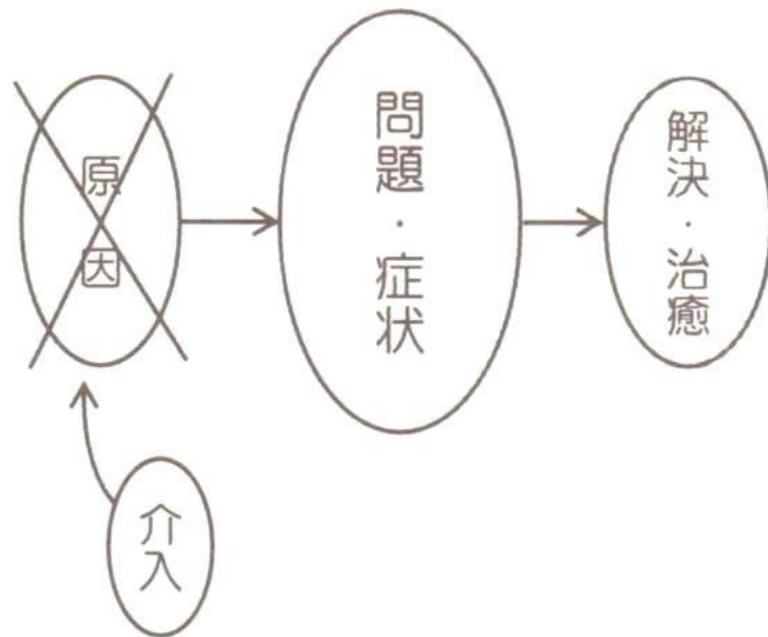
【玉利光太郎:理学療法診断学構築の意義. 第48回日本理学療法学会大会シンポジウムより引用】

臨床での“結果” ⇔ “カタチ”として伝えることの必要性

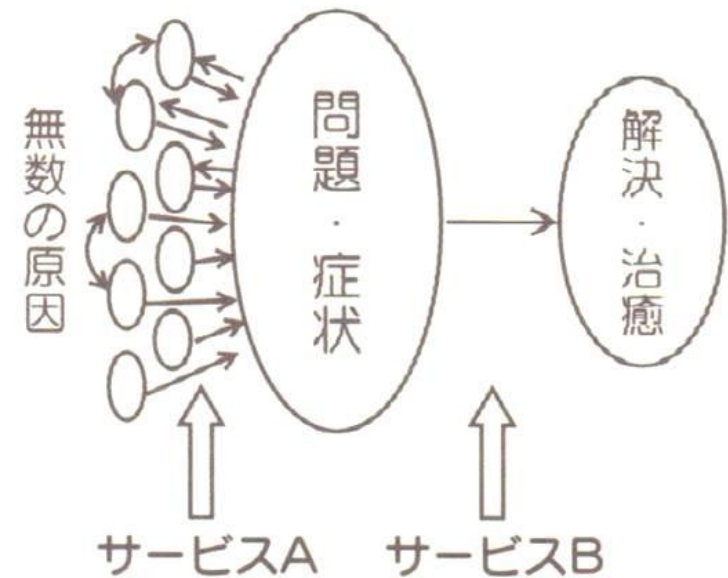


“効果”ではなく, “結果”

【問題志向型】医学モデル



【解決志向型】心理学モデル



【森俊夫・黒沢幸子: 森・黒沢のワークショップで学ぶ解決思考ブリーフセラピー. 2002】

「参考基準値」

＜参考基準値：健常者を集めて各検査項目の平均値を取り作成した統計上の数字＞

項目名	結果	単位	基準値
白血球数(WBC)	3530	/ul	3500～9700
ヘマトクリット(Ht)	41.6	%	男 40.4～51.9
AST(GOT)	17	U/l	10～40
ALT(GPT)	13	U/l	5～45
γ-GT(γ-GTP)	13	U/l	男 79以下
中性脂肪	66	mg/dl	50～149
血清血糖	※ 57	mg/dl	70～109

参考基準値の“幅”と“つながり”を作っていく



SOH Tanaka, RPT loose_no_6@ybb.ne.jp

Kyushu Medical Sports Vocational School & Kyushu Medical Sports Clinic